

「中期目標・中期計画評価」における点検結果(令和4年度実績)について

本学では、中期計画の進捗状況を毎年点検し、定期的に評価することで、目標達成に向けた取組の促進に活用する「中期目標・中期計画評価」を実施することとしています。

この度、本学の自己点検・評価委員会において、中期計画の下に設定された指標について令和4年度実績の点検を実施したところ、多くの指標が順調または予想以上に進捗していることを確認しました。一部には目標数値にわずかに至らなかったものや、新型コロナウイルス感染症の影響で至らなかったものなどもありましたが、中期計画の進捗状況としては、すべて重大な懸念(過度な遅れ)はないことを確認しました。

なお、目標数値に至らなかった指標については、中期計画の達成に向けて、必要に応じて対策を講じる等の取組を進めていくこととしております。

「中期目標・中期計画評価」における点検結果（令和4年度実績）

令和5年7月
自己点検・評価委員会

目 的

「中期目標・中期計画評価」は、中期目標の達成状況と中期計画の進捗状況を定期的に点検・評価し、評価結果を中期目標の着実な達成に向けた取組の促進に活用するとともに、法人評価にも併せて活用することを目的に点検・評価を実施する。

点検方法

各戦略室から提出された実施報告書及び評価指標調書をもとに、「中期目標・中期計画評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に沿って、評価指標の達成度及び中期計画の進捗状況の点検を行う。

点検結果

《 I. 評価指標の達成度の点検》

中期計画の下に設定された74の指標（再掲5指標含む）について、実施要領P2「評価指標の達成度の点検」の観点に沿って、点検を実施し、25の指標が計画以上に進捗している一方で、10の指標で計画を下回る進捗であることを確認した。

●中期目標別の点検結果

中期目標		中期計画	評価指標	点検結果
社会との共創 【1～2】	2項目	6項目	15指標	6つの指標が計画以上に進捗、6つの指標が順調に進捗となっているが、3つの指標において、計画を下回る進捗である
教育【3～7】	5項目	6項目	13指標	4つの指標が計画以上に進捗しており、判定不能な1つの指標*を除き、その他8つの指標も順調に進捗している
研究【8～10】	3項目	4項目 〔内再掲1〕	13指標 〔内再掲4〕	3つの指標が計画以上に進捗、5つの指標が順調に進捗となっているが、5つの指標において、計画を下回る進捗である
大学間連携【11】	1項目	1項目	2指標	1つの指標が計画以上に進捗しているが、1つの指標において、計画を下回る進捗である
病院【12】	1項目	3項目	12指標 〔内再掲1〕	6つの指標が計画以上に進捗、5つの指標が順調に進捗となっているが、1つの指標において、計画を下回る進捗である
業務運営【13～17】	5項目	7項目	19指標	5つの指標が計画以上に進捗しており、その他14の指標も順調に進捗している
計	17項目	27項目 〔内再掲1〕	74指標 〔内再掲5〕	

*令和4年度実績を目標値とするため

《Ⅱ. 中期計画の進捗状況の点検》

評価指標の達成度の点検結果及び実施報告書の記載状況を踏まえ、中期計画の進捗状況を点検し、27計画（再掲1計画含む）全てについて、重大な懸念（過度な遅れ）はない旨、確認した。

また、「特色ある取組」や「優れた実績」として抽出する取組は以下のとおり。

【特色ある取組】

- **大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R）の推進（中期計画 1-2）**
COC+R 事業では、共同授業やエクスターンシップの実施、実践型インターンシップの拡充を行い、目標を上回る学生の事業参加実績となった。これらの事業実績は、大学による地方創生人材育成教育プログラム構築事業(COC+R)の中間評価でも「優れている点」として評価されている。
- **経営改革推進本部の新設（中期計画 15-1）**
学長主導の運営体制強化を図るため、既存の経営戦略室を発展的に解消し、学長を本部長、総務・財務・経営改革担当理事を副本部長とし、各戦略室を統括する「経営改革推進本部」を令和5年4月から新設する。

【優れた実績】

- **次世代の光と期待される「テラヘルツ」波長領域における次世代光源開発（中期計画 1-5, 9-2）**
各国で技術開発が進む第6世代（6G）移動通信システムでの利用が期待されるテラヘルツ波の発生において、電気的手法より1,000倍以上の低位相ノイズ化に成功するなど、応用研究を推進しており、光工学、医光融合研究等光に関連する研究分野の共同研究・受託研究数は、単年度目標の約4倍となる23件となった。
- **「徳島大学 i. school」の開始（中期計画 5-2）**
令和4年度から新たに、イノベーション創出プロセスを設計、実施できる人材を徳島で育成する取組「徳島大学 i. school」を開始するなど、イノベーション人材の育成において、組織的な実施体制を構築しており、アイデアコンペ等の受賞は、単年度目標の約2倍となる18件となった。
- **質の高い高度な低侵襲医療の実施症例件数の増加（中期計画 12-1）**
ロボット支援手術、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)に加え、新たに脳梗塞と出血合併症のリスク、手術時間や退院までの日数の軽減が可能となる「完全内視鏡下心房細動手術(ウルフ-オオツカ手術)」を四国で初めて導入するなど、低侵襲医療を積極的に推進した。高度専門技能者の育成やチーム医療の推進との相乗効果もあり、低侵襲医療の実施症例件数は、第3期までの最高実績である400件を大幅に上回る708件となった。
- **学生広報スタッフの新設（中期計画 16-2）**
大学広報に学生の声を反映させ、学生活動や本学の取組に対する地域社会の理解増進を図ること等を目的に学生広報スタッフを新設した結果、SNSでの学生目線の情報発信の強化及びフォロワー数の増加に繋がり、SNS フォロワー数は、第4期最終目標値の約1.7倍である3,600件となった。